

第664回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2024年6月度 ——

◇ 開催日

2024年6月17日（月）

◇ 議題

<テレビ番組>

テレメンタリー

「君よ、大樹たれ ～合唱部の先生は家族性 ALS～」

放送日時：5月28日（火） 26：00～26：30

◇ その他

九州朝日放送株式会社

第664回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2024年6月17日(月) 15時25分～16時20分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社7階A会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 6名

副委員長	上野	恵梨奈
委員	山根	久資
委員	副田	智幸
委員	サーズ	恵美子
委員	小柳	美佳
委員	泗水	康信

欠席委員数 2名

委員長	藤村	まこと
委員	森	慎二

放送事業者側出席者名

代表取締役社長	森	君夫
執行役員 総合編成局長	木附	ゆかり
執行役員 報道情報局長	柴田	高宏
報道情報局 報道情報センター長	野村	友弘
北九州支社 報道情報部 部長代理(デスク)	津金澤	那智
北九州支社 報道情報部(番組ディレクター)	中村	智昭
番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長	吉岡	実
番組審議会事務局(視聴者・広報室)	松永	俊郎

4. 議題

- (1) テレビ番組 テレメンタリー「君よ、大樹たれ ～合唱部の先生は家族性 ALS～」
放送日時：5月28日（火）26:00～26:30
- (2) 6月・7月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
- (3) 5月 視聴者・聴取者応答状況の報告
- (5) その他

5. 議事の概要

委員の意見（概要）

委員からは、

- ALSという病気の紹介、竹永亮太先生が病気になった理由、投薬状況、家族や児童の受け止め方も満遍なく入っていて、構成として申し分のない内容だった。とてもいい番組だった。
- 難病を抱えながらも、優しく強く生きる一人の先生と子どもたちを追った素晴らしいドキュメンタリー番組だった。前向きに生きる竹永先生の姿に感動した。
- 竹永先生の「いろいろあるが、前向きに頑張ろう」「周りのせいにせず、自分らしく頑張ろう」というメッセージが児童たちはもちろん、視聴者にも伝わった。
- 竹永先生や子どもたちの生き生きとした表情が印象的だった。竹永先生を取り巻く元気な子どもたちの素敵な教室の風景がよく表現されていた。
- ぎりぎりまで近づくカメラワークが子どもたちから見た竹永先生をよりリアルに伝えていた。
- 「樹形図」の歌詞に込められた思いと、竹永先生が子どもたちに伝えたい思い、その思いを受け止めた子どもたちの気持ちが一つの感動的な物語になっていて、涙が溢れてくるほど感動した。
- 番組は、卒部式があって竹永先生が（学校を）辞めるのかなと思っていたが、春になり新しい学年をもう一度受け持つという場面で終えた。そうした構成が前向きに感じとれて大変良かった。
- 先生としてだけでなく、夫や兄、息子としての竹永先生が描かれ、笑顔とともにある不安や葛藤、家族への愛情など様々な感情を知ることができた。見ている側が励まされ勇気づけられた。
- 家族がいつ発症するのか分からず不安に思う気持ちや、家族に申し訳ないと思う気持ちなどが丁寧に表現されていた。自分ならどうするか考えさせられたし、家族と議論することもできた。
- 何となく知っていたALSを身近に感じる事ができた。家族性と聞かされて残酷にも感じたが、病気や薬の現状を理解する助けにもなった。

などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- サイドスーパーで「家族性ALS」の言葉が表示されていたことにやや残酷な印象も抱いた。

- 竹永先生を支える奥さまの苦労話なども聞きたかった。また、竹永先生からお母さまに対する思いを直接伝えるような場面があっても良かったのではないかと思った。
- アメリカでは承認されたALSの新薬が日本ではまだ承認されず時間を要しているという説明があったが、日本の新薬承認の現状も少し盛り込んでほしかった。
- 竹永先生から巣立った児童たちが「大樹」になった様子もぜひ見てみたいので、続編を放送する可能性がないのか気になった。
- 学校で児童を撮影する上で、保護者の承諾はどのようにして得るのか気になった。

などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、制作担当者からは、

- 特有の悩みがある「家族性ALS」と闘いながら、子どもたちのために体を使っている竹永先生の姿を見てもらうことにより、視聴者にも「自分も頑張ろう」という気持ちになってほしかった。
- 普通のALSと違うという意味で、サイドスーパーで「家族性」の文字を入れた。途中でテレビをつけた人にも「家族性」の病気とすぐに分かってもらえるようにとの目的もあった。
- 海外で開発された新薬の承認が遅れる「ドラッグラグ」の問題はあるが、今回の番組で最も伝えたかったのは、竹永先生の前向きに頑張る姿を描くこと。放送尺の問題もあり割愛した。
- 奥さまは当初インタビューをお断りされていたが、取材を進めるうちに「先生と一緒に」と了承を得られるようになった。
- 撮影許諾は事前に学校を通じて取った。始業式など大勢が参加する行事を撮影する際も、学校側と相談した上で撮影を行った。
- 過去に制作したドキュメンタリー番組での経験をもとに、メッセージ性が高まるようにと、動きのある映像で番組を締めくくるようにした。

などの説明をしました。